

## 1 調査の概要

調査概要		調査の目的	今年度の調査の特徴
実施日	令和7年4月17日(木) 【小学校:国・算・理、中学校:国・数】 令和7年4月14日(月)～4月17日(木) 【中学校:理科、質問調査】 令和7年4月18日(金)～4月30日(水) 【小学校:質問調査】	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、また教育施策の成果と課題を検証する。課題に対して改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、一連の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校第3学年の理科の問題については、IRT※1を活用しCBT※2で実施。(R7年度より変更)</li> <li>中学校質問調査では、生徒ごとに一部異なる質問項目に回答するランダム方式を採用。(R7年度より試行)</li> </ul>
実施対象	小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒		
調査内容	小学校第6学年:国語、算数、理科、質問調査 中学校第3学年:国語、数学、理科、質問調査 学校質問調査【小学校・中学校】		

## 2 教科調査 平均正答数・平均正答率、IRTスコア ※3

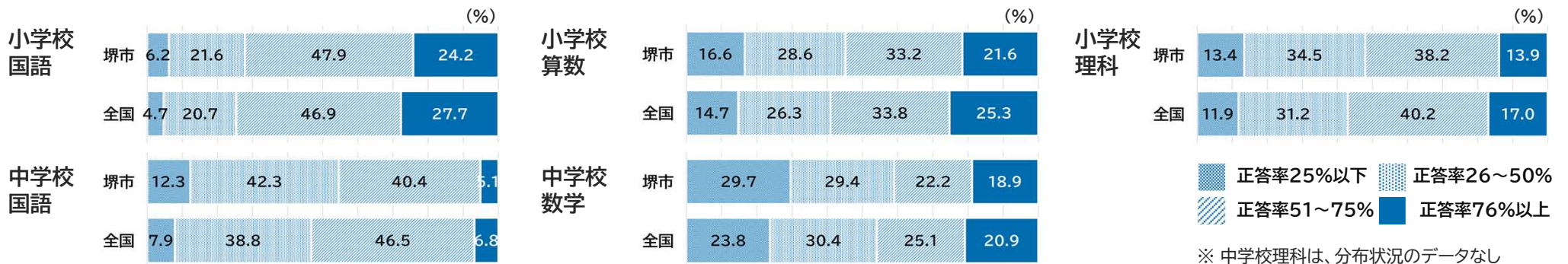
教科	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科 ※4
堺市(平均正答数)	9.0/14問	8.9/16問	9.3/17問	7.0/14問	6.7/15問	—
堺市(平均正答率)	65%	55%	54%	50%	45%	467
大阪府(平均正答率)	65%	58%	55%	52%	47%	487
全国(平均正答率)	66.8%	58.0%	57.1%	54.3%	48.3%	503

※3 IRTスコア:IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準値として算出するもの

※4 理科は3年に1度程度実施  
前回は令和4年度に実施



## 3 教科調査 正答率の分布状況 ※ グラフに示される数値は、データ算出の際の端数処理等によって数値の合計が100にならないことがあります。



 結果及び分析の見方

「結果及び分析」は、全国学力・学習状況調査の結果を「児童生徒」、「保護者」、「学校教職員」、「堺市教育委員会」が共有するものです。

今年度、調査結果を多面的に解釈し、市や学校の取組の改善及び子どもたちの学力の向上につなげることができるよう分析しました。「結果及び分析」について、各項目ごとの見方を以下に示しています。

※ 調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

※ グラフに示される数値は、データ算出の際の端数処理等によって数値の合計が100にならないことがあります。



#### 4 教科調査・質問調査結果状況

3ページ

市全体の児童生徒の学力や学習状況等の特徴を把握しやすいよう、教科調査及び質問調査の結果を同じ基準に揃えて図式化しています。

全国平均(内側の点線)をもとに、市の現状を確認することができます。



#### 5 教科別 結果及び分析

4～9ページ

小中学校の各教科において、以下のように示しています。

左側 問題の分類別平均正答率や正答数ごとの児童生徒の分布状況を表やグラフで示しています。

※ 今年度から中学校理科はIRT方式が採用されました。今後、難易度や調査集団に左右されず、経年での比較が可能になります。

右側 多くの児童生徒がむずかしいと感じた問題を対象に、学習時のポイントや出題の趣旨を示し、児童生徒が問題を通して、各教科の物事を捉える視点や考え方(教科の見方・考え方)について考えることができるようにしています。また、調査問題や解説資料も二次元バーコードから確認することができます。



#### 6 質問調査 結果概要

10～11ページ

3ページの「4 教科調査・質問調査結果状況」等から、特徴的な項目の質問調査の結果を分析し示しています。全国平均や、昨年度の同学年集団の回答結果をもとに、今年度の小6・中3の傾向を確認することができます。



#### 7 クロス分析 8 堺市教育委員会の主な取組一覧

12ページ

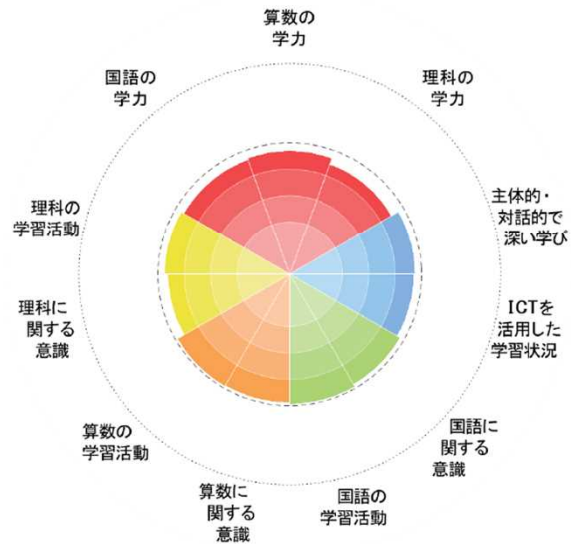
児童生徒の実態を多面的に捉えることができるよう、質問調査の項目間のつながりを示しています。

また、市がめざす「総合的な学力」の育成に向けて、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、総合的かつ計画的に進める施策や取組の一覧を示しています。

## 4 教科調査・質問調査結果状況（上:小学校、下:中学校）

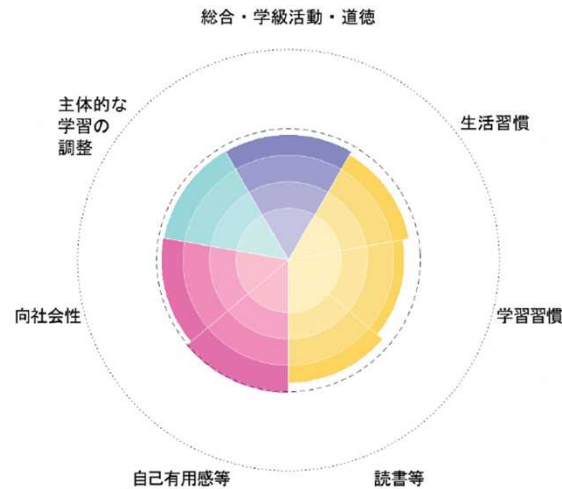
〔教科を中心とした学力・学習状況〕

（全国基準）



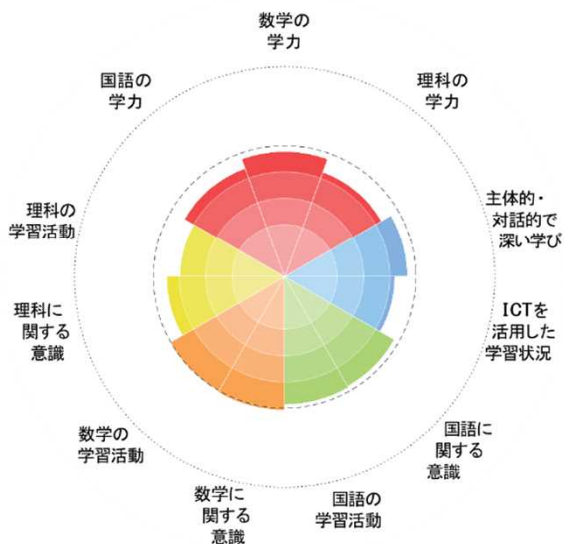
〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

（全国基準）



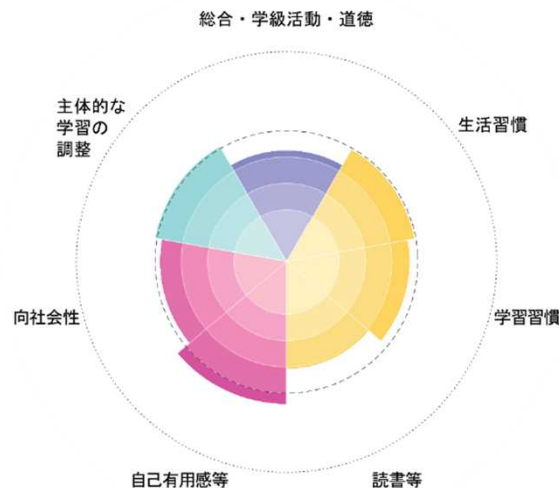
〔教科を中心とした学力・学習状況〕

（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

（全国基準）



### 左図について

市全体の児童生徒の学力や学習状況等の特徴を把握しやすいよう、教科調査及び質問調査の結果を同じ基準に揃えて図式化したもの

### 左図からわかること

#### 小学校

- ・〔教科を中心とした学力・学習状況〕において、例えば「国語(算数)の勉強は好きですか」など「国語(算数)に関する意識」の項目や、「国語(算数)の授業の内容はよくわかりますか」など「国語(算数)の学習活動」の項目が全国平均と同程度である。
- ・〔その他の学力・学習状況〕において、「自己有用感等」の項目が全国平均と同程度である。一方で、「学習習慣」の項目が他の項目と比べ、全国平均と差がある。

#### 中学校

- ・〔教科を中心とした学力・学習状況〕において、「数学の学習活動」の項目や「数学に関する意識」の項目が高い。一方で「理科の学習活動」の項目や、「ICTを活用した学習状況」の項目が他の項目に比べ、全国平均と差がある。
- ・〔その他の学力・学習状況〕において、「自己有用感等」の項目が全国平均より高い。一方で「総合・学級活動・道徳」の項目や、「読書等」の項目が他の項目に比べ、全国平均と差がある。

### 観点ごとの質問項目について

質問項目の一部を10、11ページに記載

5-1 教科別 結果及び分析 (小6・国語)

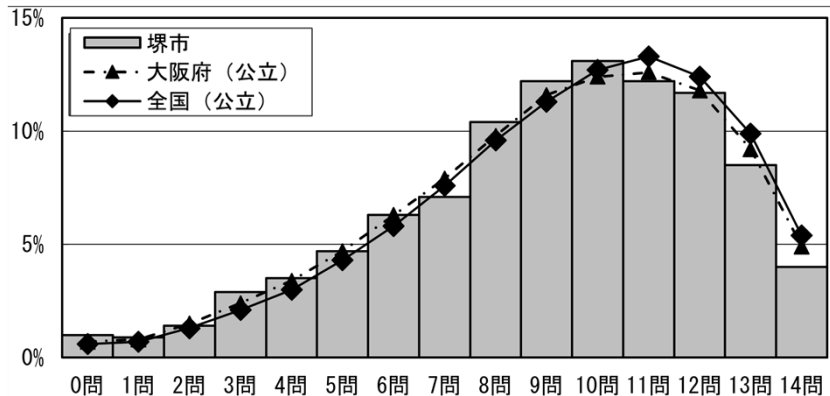
下の資料からわかる本市の状況

- ・ (ア)では、評価の観点「思考・判断・表現」で平均正答率が60.9%であり、「知識・技能」の平均正答率に比べ12.7ポイント低かった。学習指導要領の内容のうち、「B 書くこと」の区分の平均正答率が、66.6%で最も高く、「C 読むこと」の区分の平均正答率が54.5%で最も低かった。
- ・ (イ)では、正答数が10問の児童の割合が最も高く、大阪府や全国の分布グラフと同様に、山が右に寄っており、正答数が高い児童の割合が多かった。

(ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			65.0	65.0	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	77.0	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	61.1	61.5	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.1	80.3	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.8	65.0	66.3
		B 書くこと	66.6	67.1	69.5
		C 読むこと	54.5	56.1	57.5
評価の観点	知識・技能	4	73.6	73.9	74.5
	思考・判断・表現	10	60.9	62.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	62.6	63.4	64.7
	短答式	3	77.5	78.2	78.5
	記述式	2	54.0	55.7	58.8

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学習時のポイント」を読んで、問2三をふりかえろう!

むずかしいと感じた人が多い問題

物を含む使い方  
手ぬぐいは、いろいろな物を含むことができます。

物を含む使い方

※上の解題用紙は書き用紙なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きます。  
※の印から横書きで書きます。どちらかで行を変えて、続けて書きます。

小国-8

【調べたこと】

【調べたこと】

〈本を読んで分かったこと〉

- ブックカバー
  - ・何回か折るだけで、すぐに完成する。
  - ・本の大きさに合わせて含むことができる。
- ペットボトルカバー
  - ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。

〈使ってみて分かったこと〉

- ブックカバー
  - ・よごれがつかのを防ぐことができるよかったです。
  - ・落としたときに、本がきずづかなかった。
- ペットボトルカバー
  - ・水でしが荷物につかなくてよかったです。
  - ・温かい飲み物が冷めにくかったです。



小国-7

【ちらし】

【ちらし】

山田さんは、「[ち]」の書きかたについて友達に相談し、「[ち]」の「部」をくりし、書いたほうがよいと考え、次の「調べたこと」を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合致して書き直してください。

三 山田さんは、「[ち]」の書きかたについて友達に相談し、「[ち]」の「部」をくりし、書いたほうがよいと考え、次の「調べたこと」を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合致して書き直してください。

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなよさがあり、好きなよさを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をそとにしたよさがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手の「[ち]」に合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけでなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

いあつ日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を含む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を含むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。

小国-5

学習時のポイント

目的や意図を確認し、手ぬぐいのよさやいろいろな物を含むことができるということが伝わるように、【調べたこと】から、どの部分を引用するかを考えることが重要です。

正答例の詳細は、このページ右下の解説資料二次元バーコードからご覧ください。

正答例  
条件を3つとも満たしているもの

出題の趣旨  
目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方をくふうすることができるかをみる。



誤答例  
3つのうち2つの条件のみ満たしているもの

関係する教科書の単元等

6年 発見、日本文化のみりよく  
5年 言葉のスケッチ

調査問題

解説資料

## 5-2 教科別 結果及び分析 (中3・国語)

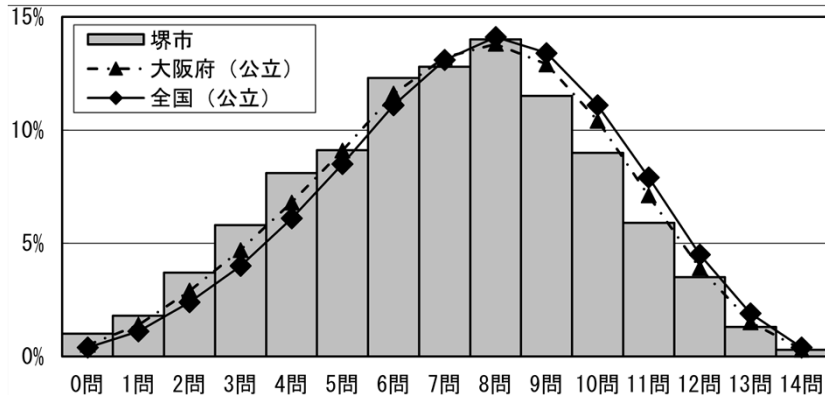
下の資料からわかる本市の状況

- ・ (ア)では、評価の観点「思考・判断・表現」で、平均正答率が50.8%であった。学習指導要領の内容のうち、「C 読むこと」の区分の平均正答率が58.7%で最も高く、「B 書くこと」の区分の平均正答率が47.8%で最も低かった。
- ・ (イ)では、正答数が8問の生徒の割合が最も高く、全国と同程度だが、正答数が9問～11問の生徒の割合は全国より少なかった。

### (ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)	
全体			50	52	54.3	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	45.2	47.8	48.1	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	48.7	50.7	53.2
		B 書くこと	5	47.8	50.5	52.8
		C 読むこと	3	58.7	61.2	62.3
評価の観点	知識・技能	2	45.2	47.8	48.1	
	思考・判断・表現	12	50.8	53.2	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	60.1	62.4	63.9	
	短答式	2	68.5	72.6	73.6	
	記述式	4	20.5	22.6	25.3	

### (イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学習時のポイント」を読んで、問4二をふりかえろう!

むずかしいと感じた人が多い問題

### 学習時のポイント

職場体験のお礼の手紙であること、  
「お店の皆さんに親切に指導してもらい、  
ところを、」指導していただき「と謙譲語を使うなど、相手  
の立場に立って言葉を選ぶことが重要です。

正答例の詳細は、このページ  
右下の解説資料二次元バー  
コードからご覧ください。

### 正答例

3つの条件を満たして  
解答しているもの

### 誤答例

条件1を満たし、条件2  
を満たさないで解答し  
ているもの

※ 次のページの「手紙の下書きの一部」と「理由」の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考  
える部分一つ選ぶこと。なお、「手紙の下書きの一部」の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直す  
のかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き  
加えたりしてもかまいません。

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、「手紙の下書きの一部」の、どの部分をどのように修正しま  
すか。三上さんの修正の仕方参考にして、次の条件1から条件3にして書いてください。

【手紙の下書きの一部】

先日  
さて、昨今は、私たちの職場体験活動に協力してくれずありません。ありがとうございます。大野さんを  
はじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。  
この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもって  
いなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びら  
が落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすること  
を通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

ご協力ください、

4

三上さんは、職場体験活動でお世話になった生花店の店長の大野さんに、お礼の手紙を書いています。次は、三上さんが推敲  
している途中の「手紙の下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

中国-20

中国-19

### 出題の趣旨

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、  
文章を整えられることができるかどうかをみる。

### 関係する教科書の単元等

1年 読み手の立場に立つ  
2年 表現の効果を考える

調査問題



解説資料



### 5-3 教科別 結果及び分析 (小6・算数)

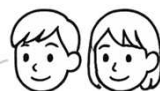
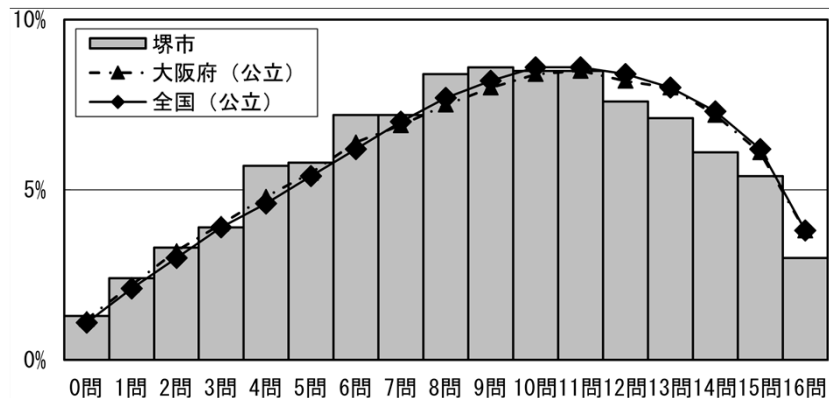
下の資料からわかる本市の状況

- ・ (ア)では、評価の観点「思考・判断・表現」で平均正答率が45.9%であり、「知識・技能」の平均正答率と比べ15ポイント以上低かった。学習指導要領の領域のうち、「A 数と計算」の領域の平均正答率が、60.7%で最も高く、「C 測定」の領域の平均正答率が51.7%で最も低かった。
- ・ (イ)では、正答数が12問から16問の児童の割合が、大阪府や全国と比べて低かった。

#### (ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			55	58	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	60.7	62.4	62.3
	B 図形	4	52.3	55.7	56.2
	C 測定	2	51.7	53.8	54.8
	C 変化と関係	3	55.9	57.3	57.5
	D データの活用	5	59.8	61.5	62.6
評価の観点	知識・技能	9	62.9	65.1	65.5
	思考・判断・表現	7	45.9	47.9	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	65.2	66.8	67.2
	短答式	6	61.9	63.8	64.0
	記述式	4	31.2	34.3	34.9

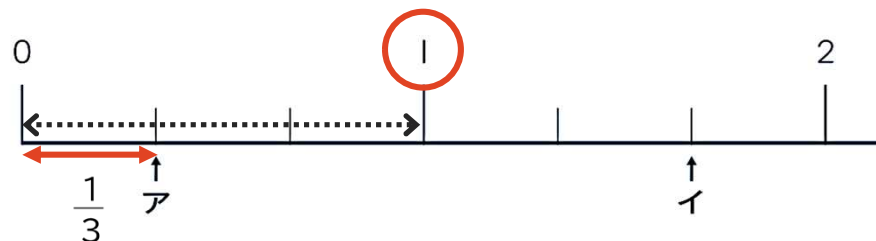
#### (イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学習時のポイント」を読んで、問3(3)をふりかえろう!

むずかしいと感じた人が多い問題

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



#### 学習時のポイント

数直線上で、1のめもりに着もくし、分数を単位分数のいくつ分として捉えることが重要です。

アは、めもりの一つ分の大きさを表しており、0から1までを3等分した一つ分「 $\frac{1}{3}$ 」であることを見出します。 ←……→

イのように、1より大きくなる時も、めもりの一つ分「 $\frac{1}{3}$ 」をもとにして考えることが大切です。

#### 正答例

ア:  $\frac{1}{3}$  イ:  $\frac{5}{3}$  または  $1\frac{2}{3}$

#### 出題の趣旨

数の表し方の仕組みや数の構成する単位に着もくし、小数や分数の計算の仕方について統一的・発展的に考察できるかどうかをみる。

#### 誤答例

アを  $\frac{1}{3}$  と解答し、イを  $\frac{5}{6}$  と解答

#### 関係する教科書の単元等

3年 分数 4年 分数  
5年 分数と小数、整数の関係

調査問題



解説資料



## 5-4 教科別 結果及び分析 (中3・数学)

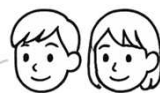
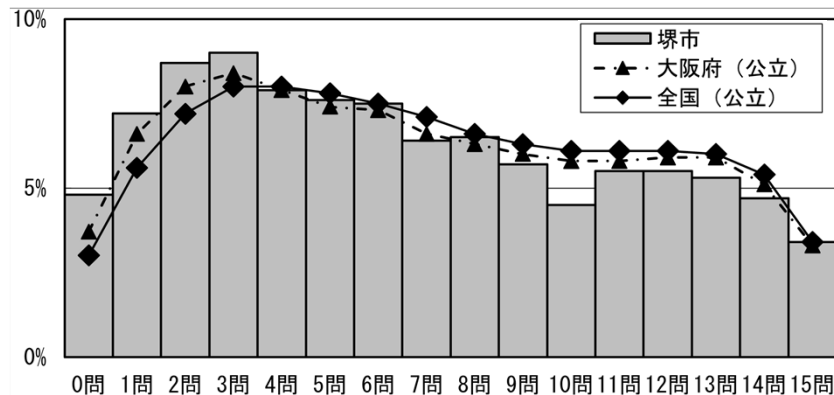
下の資料からわかる本市の状況

- ・ (ア)では、評価の観点「思考・判断・表現」の平均正答率が34.0%であった。学習指導要領の領域のうち、「D データの活用」の領域の平均正答率が、52.6%で最も高く、「A 数と式」の領域の平均正答率が41.9%で最も低かった。
- ・ (イ)では、正答数が0問から3問の生徒の割合が高く、大阪府や全国と比べても高かった。

### (ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			45	47	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	<u>41.9</u>	42.4	43.5
	B 図形	4	43.5	46.2	46.5
	C 関数	3	43.0	46.3	48.2
	D データの活用	3	<u>52.6</u>	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	9	51.8	52.9	54.4
	思考・判断・表現	6	<u>34.0</u>	37.4	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	52.7	52.4	54.0
	短答式	7	48.5	50.5	52.0
	記述式	5	34.5	38.0	39.6

### (イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学習時のポイント」を読んで、問6(2)をふりかえろう!

むずかしいと感じた人が多い問題

(2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 $n$ を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「は、……である。」という形で書きなさい。

### 学習時のポイント

式の中に出てくる数や文字が、どのような関係になっているかに着目し、式の意味を読み取ることが重要です。

この問題の場合、右の二つの式を、「奇数」を表す式として同じように捉えることが大切です。

$$\begin{aligned} & 2n + 1 \\ & 2(3n+1)+1 \end{aligned}$$

### 正答例

連続する2つの3の倍数の和は奇数である。

### 誤答例

連続する2つの3の倍数の和は3の倍数である。

### 出題の趣旨

式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

### 関係する教科書の単元等

2年 式の計算 (2)式の利用

調査問題



解説資料



5-5 教科別 結果及び分析 (小6・理科)

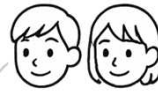
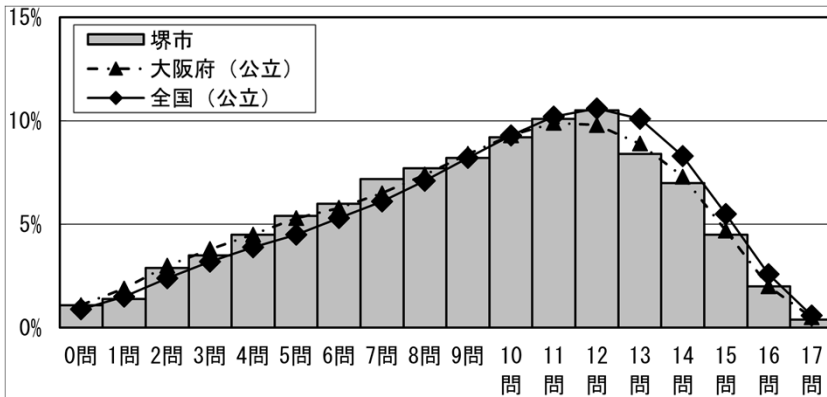
下の資料からわかる本市の状況

- ・ (ア)では、評価の観点「思考・判断・表現」で平均正答率が56.0%であった。学習指導要領の区分・領域のうち、「地球」を柱とする領域の平均正答率が、63.1%で最も高く、「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が、43.8%で最も低かった。
- ・ (イ)では、正答数が12問の児童の割合が最も高く、全国と同程度だった。

(ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			54	55	57.1
学習指導要領の区分	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	43.8	43.9	46.7
		「粒子」を柱とする領域	48.5	49.4	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	50.4	49.0	52.0
		「地球」を柱とする領域	63.1	63.9	66.7
評価の観点	知識・技能	8	52.8	52.7	55.3
	思考・判断・表現	9	56.0	56.2	58.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	51.9	52.4	54.7
	短答式	4	68.1	66.8	69.7
	記述式	2	41.4	41.6	45.2

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学習時のポイント」を読んで、問3(4)をふりかえろう!

むずかしいと感じた人が多い問題

たかひろさんたちは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、ヘチマの発芽について調べることにしました。

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。

**【問題】**ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。  
**【予想】**インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度(室温)といった条件で発芽すると思う。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

**【方法①】**水が必要か調べる。

しめさせた  
だっし綿

**【条件】**  
・水あり  
・空気あり(種子が空気にふれている)  
・温度(室温)  
・日光なし(箱をかぶせている)  
・肥料なし

かわいた  
だっし綿

**【条件】**  
・水なし  
・空気あり(種子が空気にふれている)  
・温度(室温)  
・日光なし(箱をかぶせている)  
・肥料なし

**【方法②】**空気が必要か調べる。

しめさせた  
だっし綿

**【条件】**  
・水あり  
・空気あり(種子が空気にふれている)  
・温度(室温)  
・日光なし(箱をかぶせている)  
・肥料なし

水

**【条件】**  
・水あり  
・空気なし(種子が空気にふれていない)  
・温度(室温)  
・日光なし(箱をかぶせている)  
・肥料なし

**【方法③】**適した温度(室温)が必要か調べる。

ケ

コ

たかひろさんが行った実験

しめさせた  
だっし綿

**【条件】**  
・水あり  
・空気あり(種子が空気にふれている)  
・温度(室温)  
・日光なし(箱をかぶせている)  
・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の【条件】の中から1つ選んで調べてみたい。

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

**学習時のポイント**

新たな問題を見だし、表現するには、発芽条件に着目し、それぞれの実験方法や結果を差異点や共通点を基にして、考えることが重要です。

**正答**  
日光もしくは肥料の条件から1つ選び、レタスの発芽に関し、問題を記述している

**誤答**  
日光もしくは肥料の条件から1つ選んでいるが、問題について記述していない

**出題の趣旨**  
レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。

**関係する教科書の単元等**  
3年 たねをまこう、植物の育ちとつくり、花のかんさつ、植物の一生  
5年 植物の発芽と成長 6年 植物のつくりとはたらき

調査問題 解説資料



5-6 教科別 結果及び分析 (中3・理科)

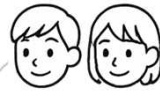
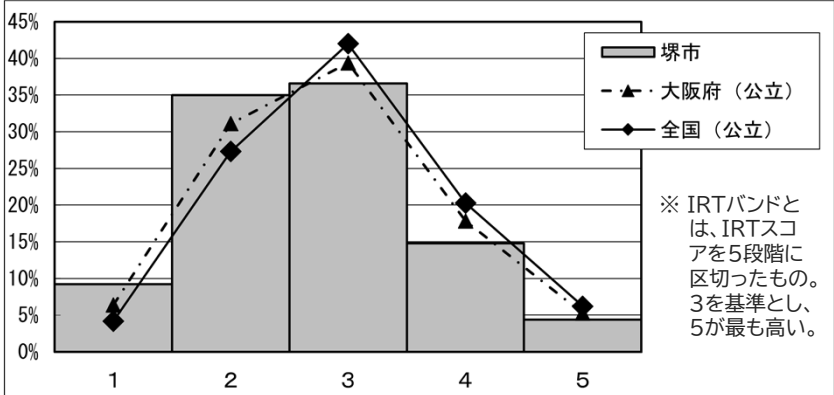
下の資料からわかる本市の状況

- ・ (ア)では、評価の観点「思考・判断・表現」で平均正答率が32.7%であり、「知識・技能」の平均正答率に比べ30ポイント程度低かった。学習指導要領の領域のうち、「粒子」を柱とする領域の平均正答率が、56.2%で最も高く、「地球」を柱とする領域の平均正答率が、31.0%で最も低かった。
- ・ (イ)では、IRTバンドで2及び3の生徒の割合が高かった。

(ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) ※参考値		
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			参考値のため、表示しない		
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	5	52.0	55.0	56.1
	「粒子」を柱とする領域	8	<u>56.2</u>	58.8	61.7
	「生命」を柱とする領域	5	39.7	42.4	44.8
	「地球」を柱とする領域	5	<u>31.0</u>	33.9	37.3
評価の観点	知識・技能	10	62.3	65.1	66.8
	思考・判断・表現	12	<u>32.7</u>	35.6	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	52.0	54.5	56.9
	短答式	1	42.4	45.6	44.9
	記述式	6	32.3	35.8	39.3

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



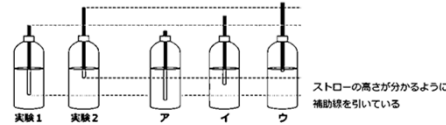
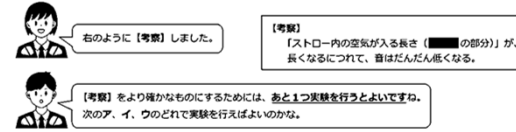
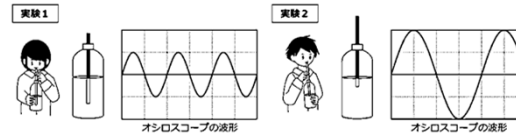
「学習時のポイント」を読んで、問2(1)をふりかえろう!

むずかしいと感じた人が多い問題

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。  
(1)、(2)の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ(■の部分)」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。

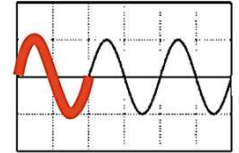


(1) 実験について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選びなさい。  
上のア、イ、ウのどの実験を選んでみませんか。  
また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分ればよいか、振動数という言葉を使って書きなさい。  
選んだ実験 選択理由(ア)のみ  
分ければよいこと

正答例の詳細は、このページ右下の解説資料二次元バーコードからご覧ください。

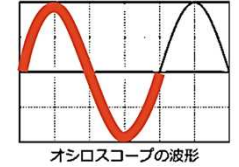
実験1

太線の部分で振動数1にあたるため、全体では振動数3となる。



実験2

太線の部分で振動数1にあたるため、全体では振動数1.5となる。



学習時のポイント

「ストロー内の空気が入る長さ」を変えたときの振動数を比較することで、振動数と音の高低の関係を見出すことが重要です。

正答例(アを選んだ場合)

【実験1の波形の振動数 < アの波形の振動数】の条件を満たしているもの

誤答例(アを選んだ場合)

【実験2の波形の振動数 < アの波形の振動数】の条件を満たしているもの

出題の趣旨

【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着もくした実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。

関係する教科書の単元等

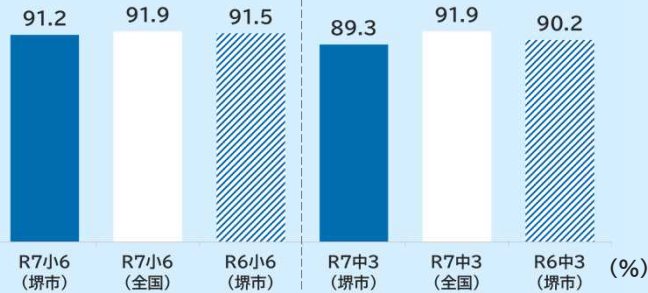
1年 光・音・力による現象

調査問題 解説資料



## 6-1 質問調査 結果概要

【教科の学び】授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



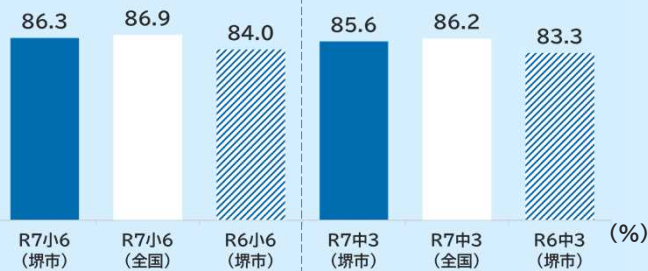
堺市では、小学校での値が、中学校と比べて、高い。

【夢や目標】将来の夢や目標を持っていますか



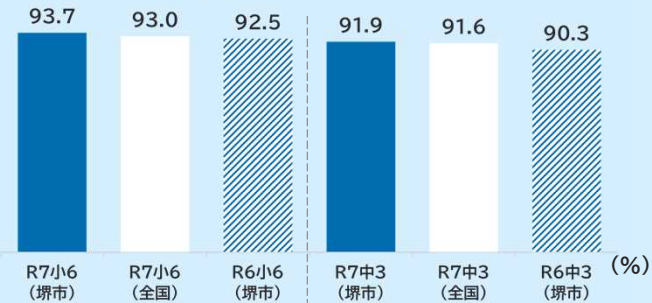
小学校、中学校ともに全国の値と比べて差はあるものの、前年度の値より高い。

【自己有用感等】自分にはよいところがあると思いますか



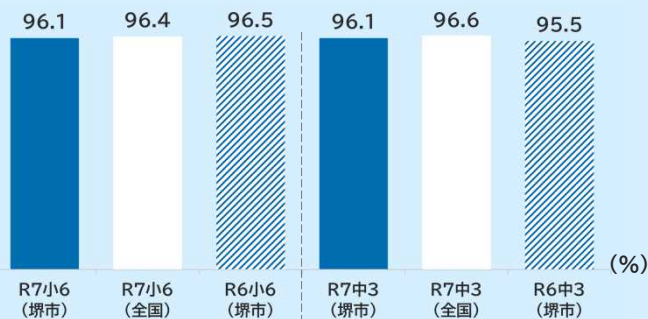
小学校、中学校ともに堺市の前年度の値より高い。

【日々の幸せ】普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



小学校、中学校ともに、全国及び堺市の前年度の値より高い。

【向社会性】人の役に立つ人間になりたいと思いますか



小学校では前年度の値より低い。中学校では、前年度の値より高い。

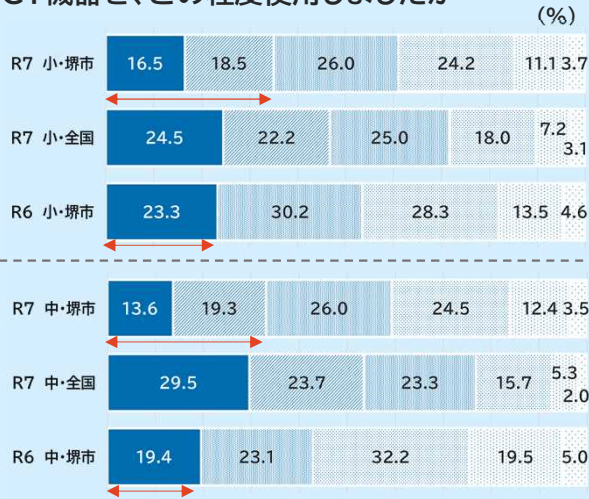
【大人への信頼】困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



小学校、中学校ともに、全国及び堺市の前年度の値より高い。

6-2 質問調査 結果概要

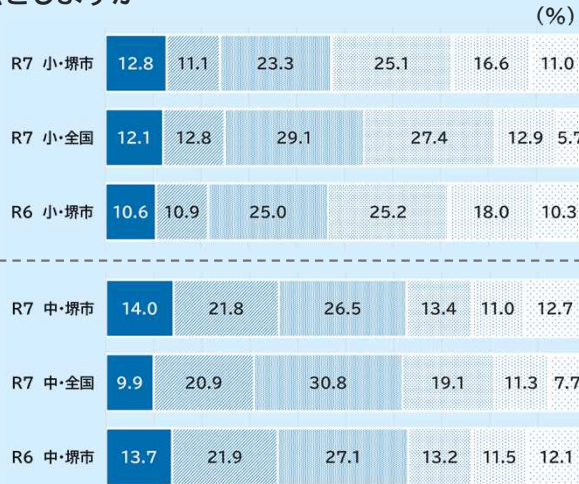
【 ICTの利活用 】 5年生までに(中学校1、2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか (%)



ICT機器の使用頻度が前年度に比べて高まっているものの、「ほぼ毎日」の割合が、小学校、中学校ともに、全国の値より低い。

左から順に  
 ほぼ毎日(一日の複数の授業)※  
 ほぼ毎日(一日に一回くらいの授業)※  
 週3回以上  
 週1回以上  
 月1回以上  
 月1回未満  
 ※ R7より「ほぼ毎日」は2つの選択肢に変更

【 家庭学習 】 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (%)



授業時間以外に1時間以上学習している時間は、小学校に比べて中学校が多い。「3時間以上」の割合が、全国の値より高い一方で、「全くしない」の割合も高い。

左から順に  
 3時間以上  
 2時間以上、3時間より少ない  
 1時間以上、2時間より少ない  
 30分以上、1時間より少ない  
 30分より少ない  
 全くしない

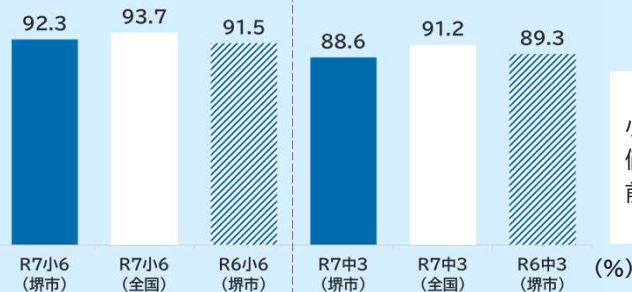
【 読書習慣 】 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか (%)



授業時間以外の読書時間は、中学校に比べて小学校が多い。「全くしない」の割合が、全国の値より高い。

左から順に  
 2時間以上  
 1時間以上、2時間より少ない  
 30分以上、1時間より少ない  
 10分以上、30分より少ない  
 10分より少ない  
 全くしない

【 生活習慣 】 朝ごはんを毎日、食べていますか (%)



小学校は、前年度の値より高い。中学校は、前年度の値より低い。



規則正しい生活習慣を身に付け、自分の行動を自分で律する力をつけることが、学力向上にもつながります。

- 1 早寝早起きの習慣をつけよう
- 2 朝ごはんを毎日食べよう
- 3 家族との対話を大切にしよう
- 4 学校に持って行くものを前日に確かめよう
- 5 宿題など自分から進んで勉強しよう
- 6 テレビやゲームの時間を決めよう
- 7 本を読む時間をつくろう

家での7つのやくそく



## 7 クロス分析 ※ クロス分析をすることで、質問項目間のつながりを考えることができます。

### 【向社会性】

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした児童生徒は、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問においても肯定的な回答をする傾向にあります。

### 【自分ごととして学ぶ】

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に、肯定的な回答をした児童生徒は、以下の質問においても肯定的な回答をする傾向にあります。

- 【小】 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる
- 【中】 授業や学校生活で、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる

## 8 堺市教育委員会の主な取組一覧

堺市では、「総合的な学力」の育成のため、以下のことに取り組んでいます。

### 【調査結果の活用】

- ・ こどもが自身のつまずきに気づき、自ら学びを進められるよう「ドリルパークで学ぶ力を育てようシート」を提供。
- ・ 調査結果を「分析のしおり」にまとめ、つまずきのポイントや9年間の指導の系統性を示し、学力向上に向けた効果的なカリキュラム改善を支援。
- ・ IRTを活用した堺市学力・学習状況調査(小4～中2対象)を年1回実施。調査結果を活用し、個に応じた指導支援の工夫や教育実践の改善を推進。

### 【授業改善の推進】

- ・ 「学びのコンパス(こどもが自ら学びをすすめる授業づくりの考え方)」に基づく授業改善を推進し、公開授業及び協議会や、教科研修を実施。
- ・ 地域や社会とのつながりを大切にし教科の視点の充実を図りながら、より探究的な学びを進めるために「堺STEAMブック」を作成し授業で活用。
- ・ 学びのインフルエンサー(こどもの学び研究員)やICTインフルエンサー(ICT活用推進研究員)の派遣等により、授業改善例を示し広く周知。
- ・ 自校の取組を公開したい学校と、他校の取組を参考にしたい学校をマッチングする「学校間マッチング」をR7年度から実施。
- ・ 学校園へ指導主事を派遣し、授業づくりの支援、事前検討会への参加や研究授業当日の指導助言、校内研修の講師として研修を実施。
- ・ ICTを活用した授業実践をSharePointを用いて学校に周知し、授業改善を推進。また、指導や校務におけるICTの活用事例を教育情報ネットワーク上で共有し、校務DX化を推進。

### 【学びに向かう習慣づくり】

- ・ 家庭と連携して習慣づくりに取り組むために、生活・学習習慣に関して「家での7つのやくそく」を作成し、継続して家庭へ啓発。
- ・ 学校図書館における「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能の充実に向けて、全校に学校司書を配置し、学校図書館サポーターとともに読書環境を整備。また、司書教諭や学校司書を対象とした研修を実施。